

心の栄養剤 No.235 『無償の愛』

「お母さんのかんじょう書き」というお話があります。

進くんという少年が学校へ出かけるとき、前の夜に書きつけたメモを二つに折ってお母さんの机の上に置くと元気いっぱい「行ってきます」と家を出ました。そのメモにはこう書いてありました。

かんじょう書き

- 市場にお使いに行きちん 十円
 - お母さんのあんまちん 十円
 - お庭のはきちん 十円
 - 妹を教会につれて行きちん 十円
 - 婦人会のときのるすばんちん 十円
 - ごうけい 五十円
- 進

お母さんへ

進くんのお母さんは、これを見てニコッと笑い、その勘定書きのメモに五十円を乗せ、机の上に置きました。

進くんは大喜びで貯金箱にその五十円をしまい、「よし、もっとお母さんのお手伝いをして小遣いを貯めよう」と思ったそうです。

次の日の朝……

「進！朝ごはんよ」

「はーい」

起きてきた進くんがご飯を食べようとしたら、卓袱台の上に一枚の紙があります。見ると、それはお母さんの勘定書きでした。

お母さんのかんじょう書き

- 高い熱が出てハシカにかかった時の看病代 ただ
 - 学校の本代、ノート代、エンピツ代、みんなただ
 - まいにちのおべんとう代 ただ
 - さむい日に着るオーバー代 ただ
 - 進さんが生まれてから、今日までのおせわ代 みんなただ
- お母さん

進さんへ

これを見たとき、進くんは胸がいっぱいになり、大粒の涙がこぼれたそうです。そしてこれからどんなにお手伝いをしてもお金なんかいらぬ。大好きなお母さんのために、自分のできることをもっとしてあげよう、と思ったそうです。

お金を超えた世界があることを進くんが初めて知った瞬間です。お母さんは無償の愛を見事に進くんに教えました。

無償の愛というのは「愛するから愛して」と代償を求めるようなものではなく、ただ、愛すること。

何かをしたから何かをしてほしいと求めるのではなく、

ただ、ただ、相手のことだけを思って一日一日を過ごしてみる。そんな1年を今年は歩んでみたいものです。

2007年に日本で初めて、賛否両論の中熊本市（慈恵病院）で始まった、親が育てられない子どもを預かる「このとりのゆりかご（赤ちゃんポスト）」の記事の中で、0歳から18歳まで県立（公立）の施設～学校で育てていく場合、1人の子どもに**1億1500万円以上必要になるという試算**が出ていた事を思い出しました。

逆に言えば、実親（母・父）がまさに無償の愛で1人の子どもを育てていく行為は、費用化すると1億1500万以上という事になります。

私自身も共働きで忙しい母親に、まさに無償の愛たっぷりに育てて頂き今があります。

『親想う心にまさる親心』 『孝行したい時には親はなし』

母を見送って年数が経つ程に、母の笑顔～匂い～温かさ～味～声…思い出すことが多くなり、夢でもよく逢うようになった気がします。

昔読んだ本に『**無償の愛を与えられる人（存在）が多いほど”幸せ”である**』と書いてありました。

まずは親～子ども～兄弟と家族から頑張って**無償の愛対象者を増やして”幸せ人生”に近づいて行きましょう。**

●玉名店に「専用相談室」完成しました お気軽にお寄り下さい

●配達&宅急便もお気軽に申し付け下さい！

くすりのキュート 倉光 浩城

TEL (090-8357-2904)

